

兵庫・釣坂遺跡



(但馬竹田)

釣坂遺跡は朝来町のほぼ中心部にあたり、三方を山に囲まれ、東に延びる扇状地に立地する。付近には、白鳳時代の瓦が出土し、この地方最古の寺院と考えられている立脇廃寺があり、塔心礎が残存する。

調査の対象となつた地区は、従前から奈良・平安時代の遺物が採集されている所で、一九八五年に県営圃場整備事業に伴つて調査され、河道跡などが検出され、河岸に近い水際で多く出土しており、水辺

- 1 所在地 兵庫県朝来郡朝来町立脇字松越ほか
- 2 調査期間 一九九七年（平9）八月～一九九八年一月
- 3 発掘機関 朝来町教育委員会
- 4 調査担当者 中島雄二（朝来郡広域行政事務組合）
- 5 遺跡の種類 集落跡・祭祀遺跡・河道跡
- 6 遺跡の年代 八世紀後半～一世紀
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

釣坂遺跡は朝来町のほぼ中心部にあたり、三方を山に囲まれ、東

と入口側で集中して遺物が発見され、その二ヵ所について全面調査を行なうことになった。調査区の名称は奥側を松越地区、入口側を福本地区とし、面積は松越地区が一〇一〇m²、福本地区が一七七〇m²である。

松越地区では、建物や河道が検出されており、河道内より大量の土器と木器が出土している。河道は山裾に沿つて流れているため、一方の肩が不明瞭であるが、幅は一〇m以上で深さは遺物を含まない層まで一mを測る。土器には、「郷長」「松越」「松」「南祖」「小水谷」などと書かれた墨書き土器が一〇〇点含まれ、量としては地名とみられる「松」の墨書きが圧倒的に多い。また「郷長」の墨書きは、付近に但馬国朝来郡桑市郷の公的施設が存在したことを暗示する。

木器では木簡二点の他に、馬形や斎串・曲物・盤・合子などが出土している。

福本地区では、松越地区から流れてくる河道の統さが検出され、同じように多量の土器とともに、木器も大量に出土した。墨書き土器は「福」など一五点みられるが、松越地区と比べると少ない。木簡は一点で、他の木器としては人形や斎串などの祭祀具や、下駄・曲物・盤などがある。ほかに皇朝十二錢の一つである富寿神宝が出土している。

の祭祀を行なった可能性が高い。出土した土器は八世紀後半～九世紀にかけてのものが多く、遺跡が最も機能していた時期を示すものと思われる。

8 木簡の积文・内容

一 松越地区

(1) 「尔カ」
「息万呂」

・ □□□□□

(248) × (27) × 10 081



(384) × (24) × 7 081

(2)

(1) は上端と左右両辺を欠損している。下端は表裏両面から先端を削って斧状に尖らせてある。表裏とも墨痕の残りが良くないため、全体の判読は困難である。

(2) は上下端、左右辺ともに欠損している。墨痕は片面のみに見られ、下の部分は一行ある。木の表面が荒れているのと、墨痕が薄いことからほどんど判読できない。

二 福本地区

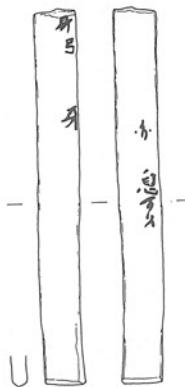
(3) □王

(114) × (45) × 8 081

(3) も上下端、左右辺とも欠損しており、全体の形状は不明である。墨痕は片面のみで、他の文字は判読が不能である。 (中島雄一)

(3) も上下端、左右辺とも欠損しており、全体の形状は不明である。墨痕は片面のみで、他の文字は判読が不能である。 (中島雄一)

(1)



(2)



(3)

